

大学等名：徳島大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

本事業は、「鉄は熱いうちに打て」(SIH: Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」を初年次に導入し、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い、成長することで、アクティブ・ラーニングを学士課程全般に浸透させていく取組である

学生の課題

- 初年次学習と目指す専門性との関連付けができていない
- 大学での学修に不可欠なラーニングスキルが不十分
- 高学年において能動的学修を実践できていない

学生と教員が共に成長



Strike while the Iron is Hot. 「鉄は熱いうちに打て」

教員の課題

- アクティブ・ラーニングが形式だけにとどまり、効果が出ない
- 新しい教育方法が分からない
- 自らの授業を振り返り、改善を検討する機会を作れない

SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
ラーニング/ティーチングスキルを向上



全学部の1年次学生

波及効果

専門科目への拡大・学生間の波及効果



高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

他科目への拡大・教員間の波及効果



大学全体にアクティブ・ラーニングが拡大



全教員が順次担当

波及効果

教員（新教育方法を学ぶ）

- ① 実践を通じアクティブ・ラーニングを実質化
- ② ルーブリック評価、反転授業等の修得
- ③ 教育経験を振り返る機会

学生（能動的に学ぶ）

- ① 専門領域早期体験による学修の動機づけ
- ② 文章力・プレゼン力・協働力を早期に獲得
- ③ 能動的学修力の基礎固め

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%	100%
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	47%	60%	80%
アクティブ・ラーニングを行う専任教員の割合	52%	63%	77%

◆本事業を実施することにより、学生のラーニングスキル、教員のティーチングスキルが向上し、学生は能動的に学修し、教員は能動的に教育改善に取り組むことで、これまでの教育改革で増加した専門科目におけるアクティブ・ラーニング型授業をより実質化することができる。

◆事業実施により、学生、教員の双方が実践を通して能動的学修のスキルを習得し、eポートフォリオの活用や全教員がSIH道場及びそのFD等に関わることで、大学全体にアクティブ・ラーニングを波及させることができる。